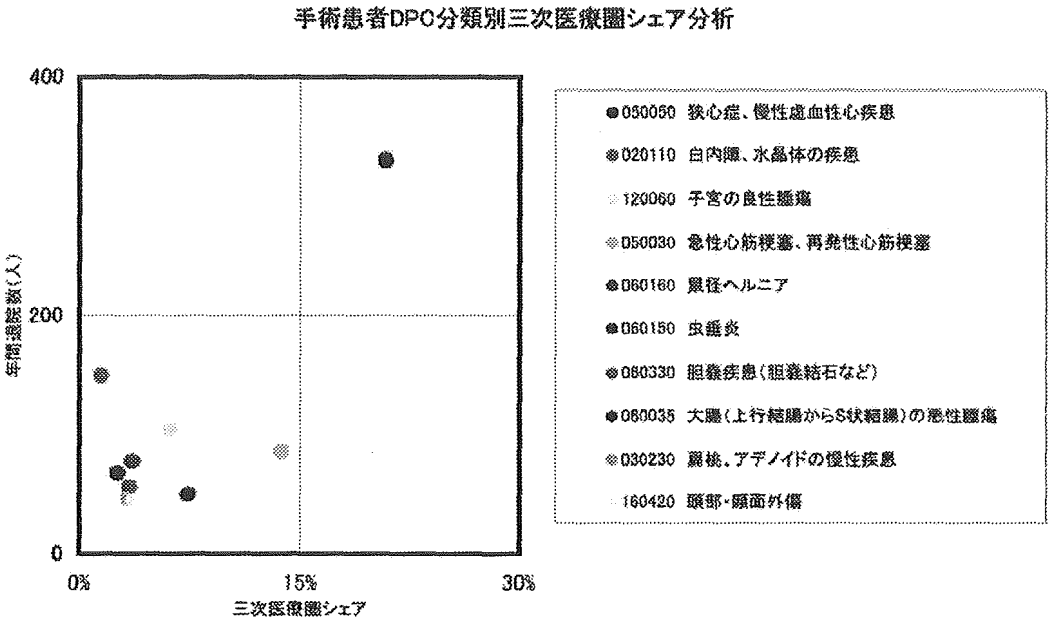
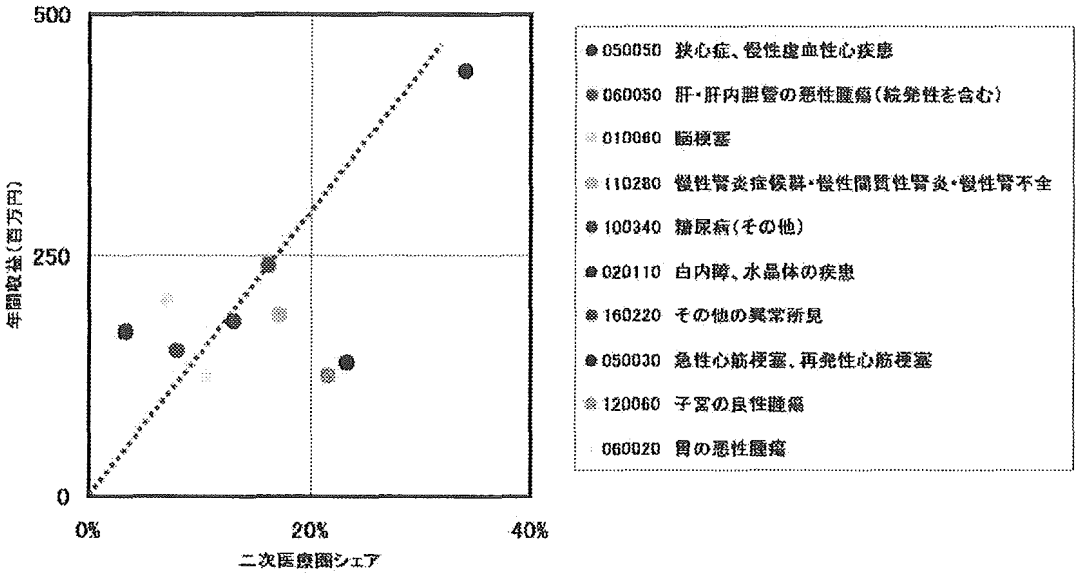
分析１－３　DPC別短期手術入院都道府県内シェア分析



- 大規模医療機関では診療圏が二次医療圏を越えて大きく広がっていることが多いので、都道府県内での「マーケットシェア」も重要な視点となる。この医療機関の虚血性心疾患の外科的治療は、都道府県内でも 20%程度のシェアを占めていて、三次医療圏内でも重要な位置を占めていることがわかる。

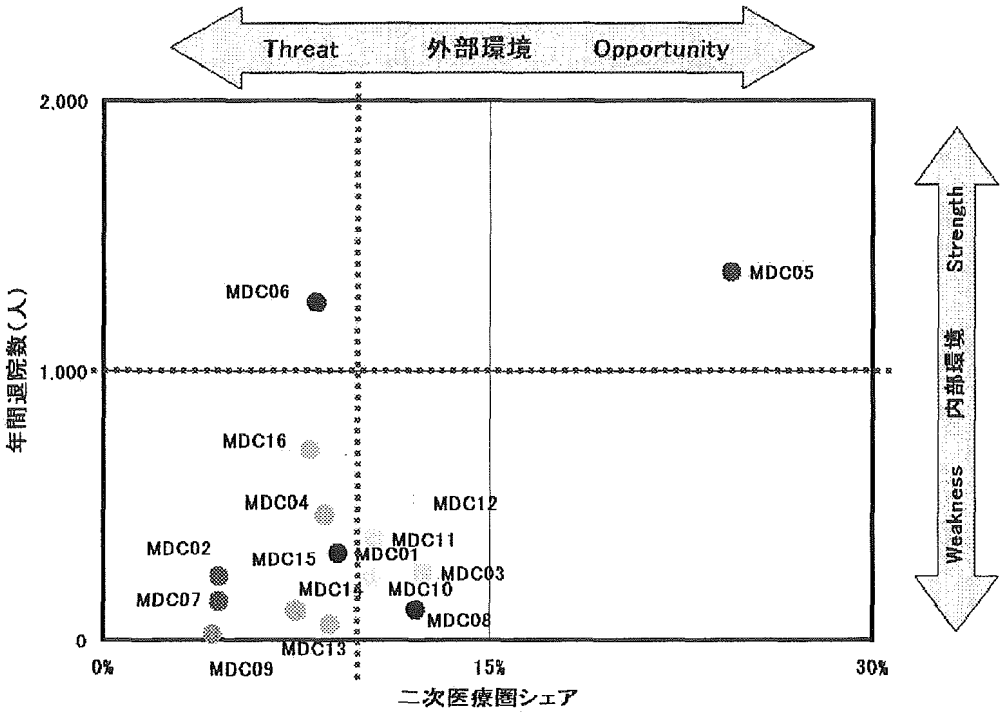
分析２　DPC 別短期入院二次医療圏内シェアー収益分析



- 分析１－１から１－３は退院患者数の上位 10 疾患の分析であるのに対して、この分析では医業収益の上位 10 疾患がわかる。疾患別の退院患者数に加えて、疾患別の在院日数と１日あたり平均医業収益が影響する。平均在院日数が長い疾患、あるいは１日あたりの平均医業収益が大きい疾患がより上位にくる。この医療機関では、脳梗塞、胃の悪性腫瘍などが上位に移動し、代わりに喘息がトップ 10 から消えている。

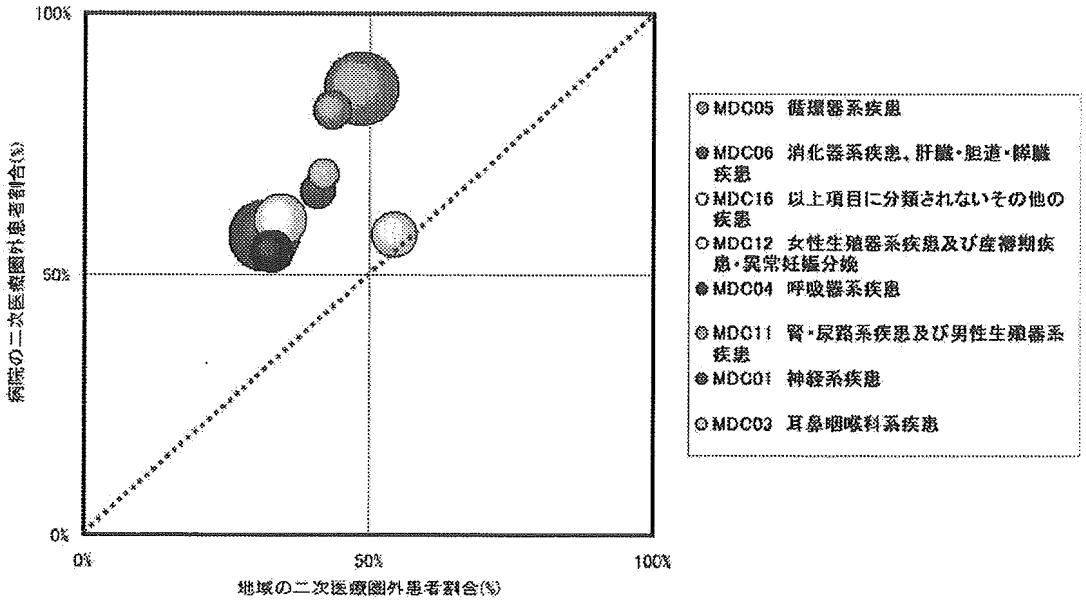
- さらに、二次医療圏シェアと医業収益を結びつけて分析することにより、よりきめ細かい分析と経営戦略立案が可能となる。たとえば、図中に破線で示すように DPC060050 肝・肝内胆管の悪性腫瘍の二次医療圏シェアと疾患別年間医業収入の関係をシミュレーションすることで、現在 15%前後の二次医療圏シェアを 20%にまでアップすることにより、医業収益が約 5000 万円増加することが期待されることがわかる。今後、地域の急性期医療機関の集約化が進むことが予想される時、疾患別の地域「マーケティング」と医療経営を直結してきめ細かに分析できることは、経営戦略の立案支援の強力なツールとなるであろう。

分析３－１　短期入院SWOT分析



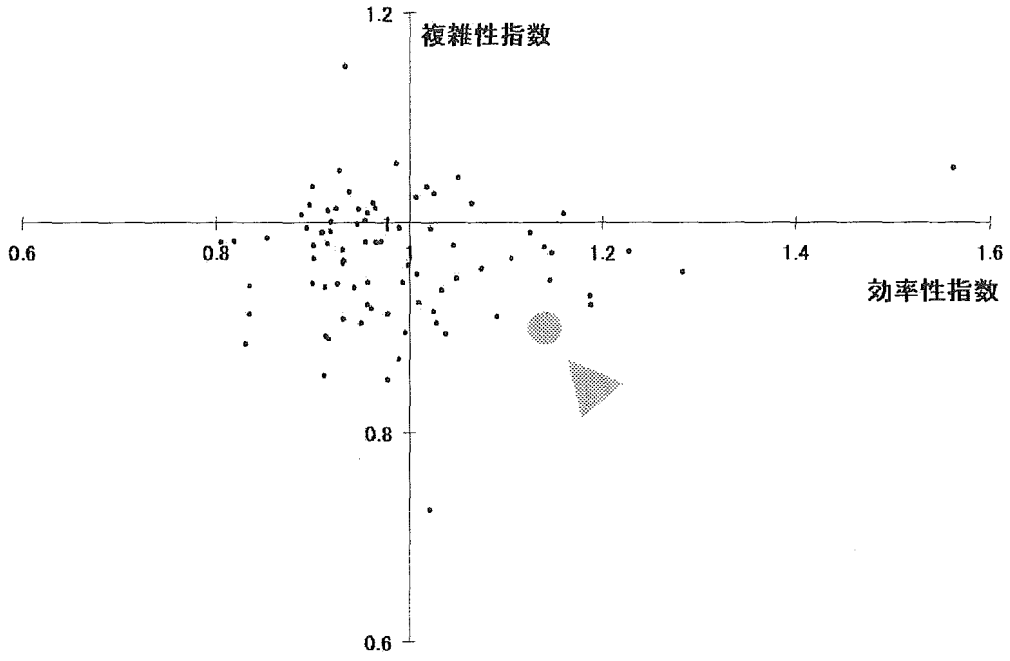
- この分析では、医療機関の強みと弱み、地域医療との関係、特に他の医療機関との競合の状況などを明らかにすることができる。
- この医療機関の診療科別に見ると、MDC05循環器系診療科の患者数が多く、地域シェアも非常に大きいことから、循環器系分野においては積極的攻勢に出てより診療の充実を図っていくことが経営戦略的に重要であるといえる。
- 一方、MDC06消化器系とMDC16その他（外傷等が多い）では、競合する医療機関が多いことが予想されるため、いわゆる「差別化戦略」として新規技術の導入、新規機器の購入等を図ることがシェアの維持と拡大に重要であるとされる。
- さらに、MDC12 産婦人科系、MDC11 腎・泌尿器科系、MDC03 耳鼻科系、MDC10 内分泌系、MDC08皮膚科系などでは、患者数はあまり多くないものの地域におけるシェアは比較的大きく、地域医療の重要な部分を担っている可能性が高い。従って、これらの分野については、いわゆる「段階的施策」として、診療内容を徐々に充実させていく対策が必要となる。
- 最後に、MDC09乳腺外科系、MDC07整形外科系、MDC02眼科系等の診療科は厳しい状況にあると言えて、「専守防衛」を基本方針とし、場合によっては、「撤退」も考慮する必要があろう。

分析４－１　短期入院圏外患者分析



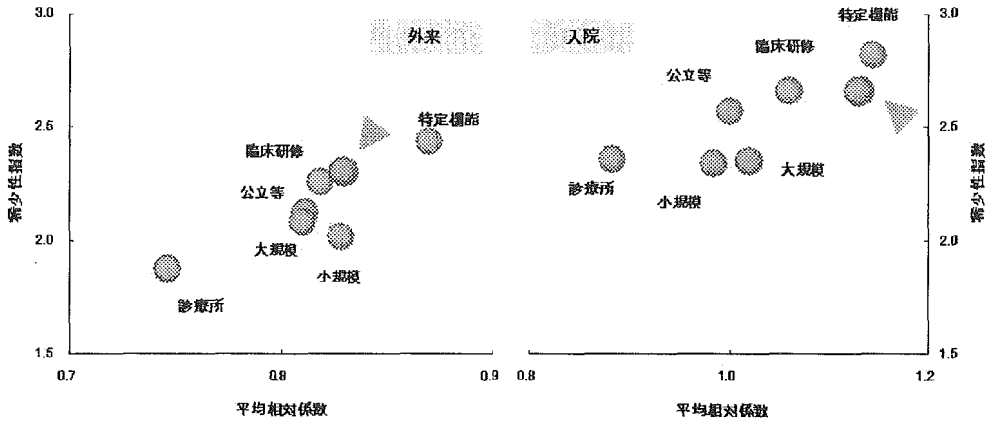
- この医療機関の所属する二次医療圏は、二次医療圏外から入院してくる急性期患者が比較的多いことが特徴で、二次医療圏外から入院してくる患者の割合を診療科系統別に見ると、産婦人科系、循環器系、消化器系患者のほぼ 50%が二次医療圏外に居住している患者となっていて、その他の診療科でも 30-40%が二次医療圏外の患者となっている。
- ほとんどの診療科が図中の破線より上方に位置していることから、この医療機関の二次医療圏外患者の割合は、この二次医療圏の中の他の医療機関よりも高くなっていることがわかる。すなわち、この医療機関の診療圏は同じ二次医療圏内の他の多くの医療機関よりも非常に大きくなっていることがわかる。
- さらに、診療科単位で見ていくと、循環器系は患者数が多いと共に二次医療圏外からの患者の割合が 90%近くと非常に大きく、二次医療圏内のシェアが非常に高いのみならず、非常に広い範囲からの入院患者を受け入れていることがわかる。腎泌尿器系も同様に医療圏が非常に大きいと言える。その他消化器系、呼吸器系、神経系、耳鼻科系では二次医療圏外患者の割合は 60%程度であるが、地域の他の医療機関よりは大きく、医療圏が広い方であるといえよう。これに対して、産婦人科系では、二次医療圏外患者の割合はほぼ二次医療圏全体と同等であることから、この医療機関の産婦人科の医療圏はこの二次医療圏内では標準的な大きさになっていると捉えることができる。

分析５　効率性・複雑性分析



- DPC 分類を用いたケースミックスの評価とケースミックス補正結果を示す。この医療機関のケースミックスは複雑性指数として定量化することができる。全特定機能病院の平均を 1 とするとこの医療機関の複雑性指数は約 0.9 であり、特定機能病院の平均より 10%ほど複雑性の低い症例が入院していることがわかる。しかし、この医療機関よりも複雑性の低い特定機能病院が 10 以上あることから、ほぼ特定機能病院並みの重症度の高い入院患者が多いと捉えて良いであろう。
- ついで、ケースミックスを補正したときの在院日数の効率性を見る。これは効率性指数として示される。全特定機能病院の平均を 1 としたとき、この医療機関の効率性指数は 1.17 であり、特定機能病院の平均に比較して 17%ほど効率の良い医療を提供していると言える。

分析６　稀少性・相対係数分析



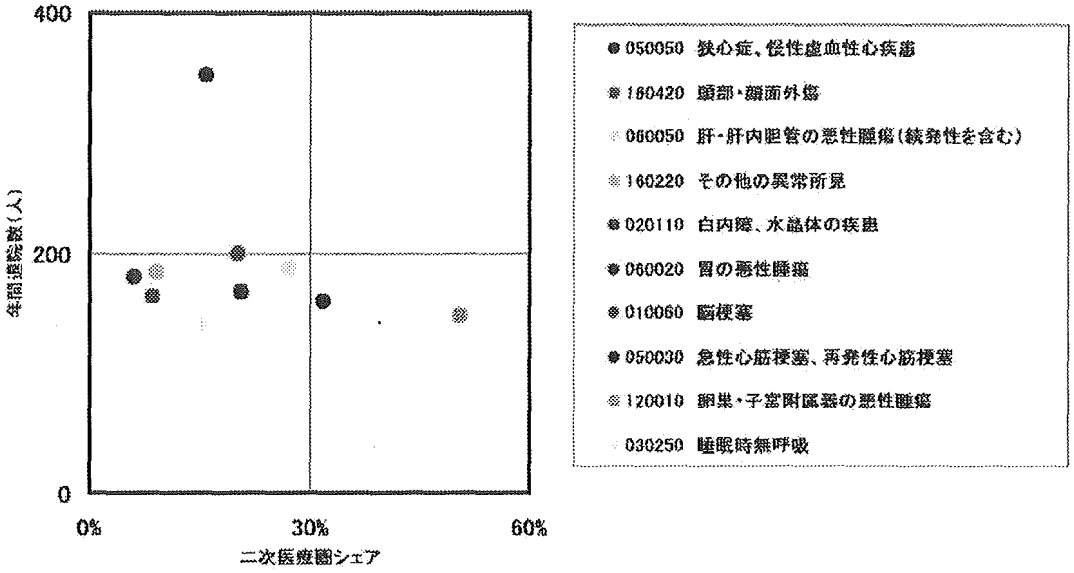
- この医療機関の外来患者の平均相対係数は 0.83、稀少性指数は 2.30 となっている。これらの値はほぼ臨床研修病院の外来の平均と近いが、平均相対係数はやや高くなっている。この医療機関の外来患者の平均像は、臨床研修病院の平均像よりやや重症度が高く、臨床研修病院と同等にやや珍しい疾患の患者が多く、多様性が大きいということになる。
- 一方、入院患者をみると、平均相対係数は 1.13、稀少性指数は 2.55 となっていて、相対係数では特定機能病院に近く、稀少性指数ではやや低く、臨床研修病院と同等になっている。この医療機関の入院患者の重症度はほぼ特定機能病院と同等であるが、症例の多様性はやや劣り、臨床研修病院並みであることがわかる。

分析レポート例2

特定機能病院

人口 10-20 万人程度の地方中核都市にある一般病床数 600 床程度の特定機能病院(大学附属病院)を想定した分析

分析１－１　DPC 別短期入院二次医療圏シェア分析

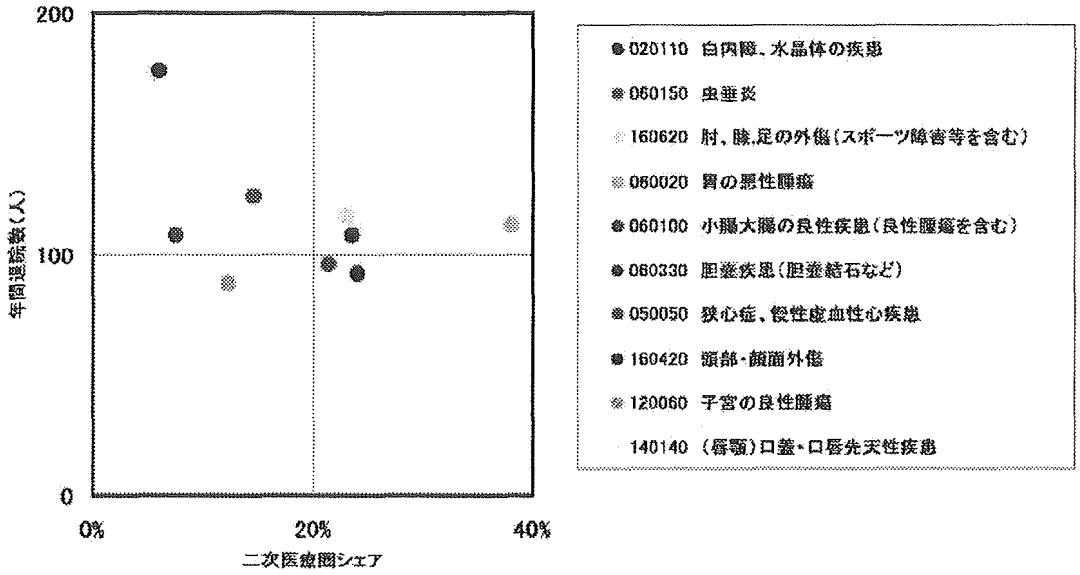


- この医療機関の短期入院患者のトップ 10 は、循環器、消化器、外傷、産婦人科等、多彩で専門性の高い疾患を取り扱っている大学病院の特徴を示している。しかし、その中に、本来患者数の多い呼吸器系と整形外科系の疾患が見られないのは、この大学病院特有の状況を示している可能性がある。

- マーケットシェアの視点から見ると、DPC120010 卵巣癌、DPC050030 急性心筋梗塞、DPC060050 肝癌、DPC060020 胃癌の二次医療圏内地域シェアは 30%前後と高く、地域の循環器系、消化器系、悪性疾患治療において特に重要な役割を果たしていることが推察される。

- 一方、DPC020110 白内障、DPC010060 脳梗塞等のいわゆるコモンディジーズの二次医療圏シェアは 10%前後とあまり高くはなく、二次医療圏内のあまり専門性が高くない他の医療機関との間で「棲み分け」ができているようである。

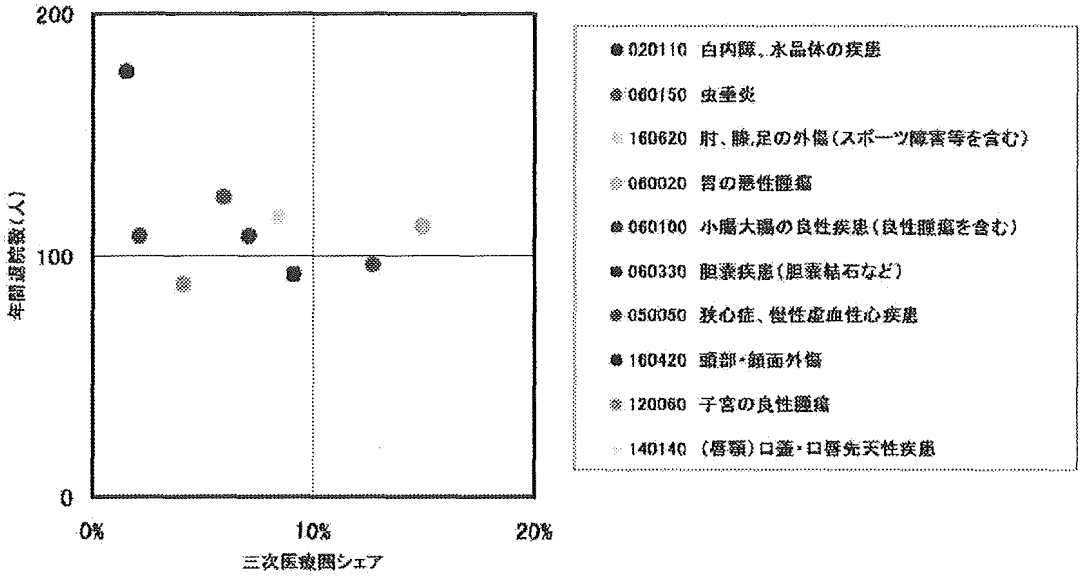
分析１－２　DPC 別短期手術入院二次医療圏内シェア分析



- 手術入院患者の状況は、地方の大学病院の特徴をよく示している。大学病院であってもDPC020110 白内障、060150 虫垂炎などの手術をかなり実施していて、虫垂炎などは、地域の 15%ものシェアを占めていることは意外な感じもする。一方、消化器系、循環器系、外傷系等多彩な疾患の手術が多いこともこの大学病院の特徴となっている。

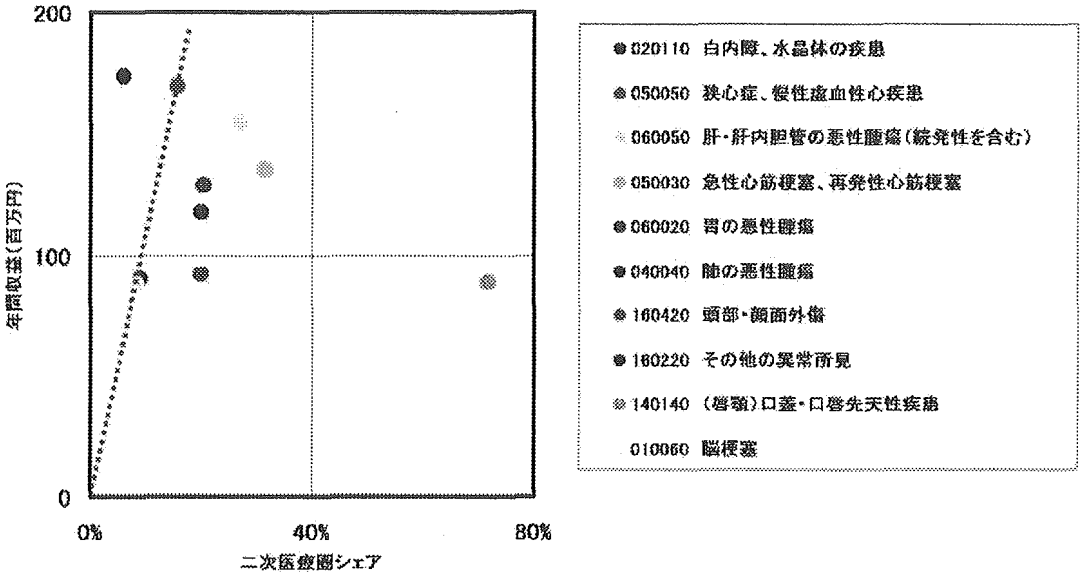
- マーケットシェアの視点から見ると、DPC060020 胃癌、DPC060330 胆嚢疾患などの消化器系、DPC160420 頭部外傷、DPC160620 四肢外傷等の外傷系、DPC050050 狭心症の循環器系のシェアが 20%を越え、これら疾患分野の手術治療では、地域において重要な位置を占めていることがわかる。

分析１－３　DPC別短期手術入院都道府県内シェア分析



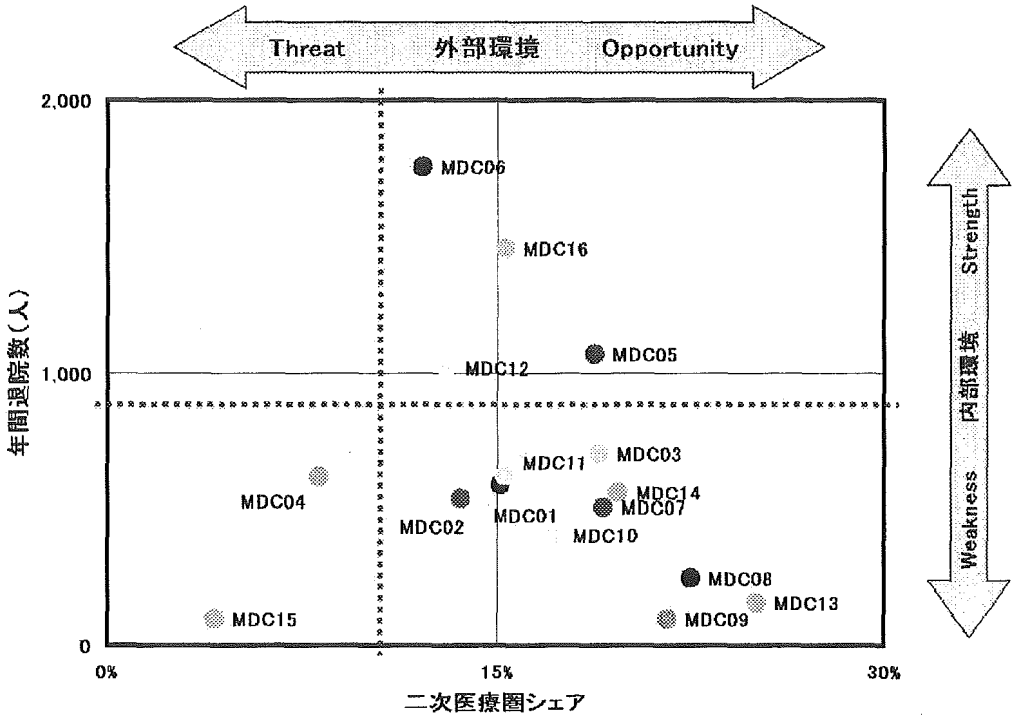
- 都道府県内でのシェアを見ると、DPC060020 胃癌と DPC050050 狭心症が 10%を越えて都道府県内でも重要な位置を占めている。特に、DPC050050 狭心症については、二次医療圏内シェアと比較して三次医療圏内のシェアが相対的に大きくなっていることは、この大学病院の循環器系手術の医療圏が特に広がっていることを示している。

分析２　DPC 別短期入院二次医療圏内シェアー収益分析



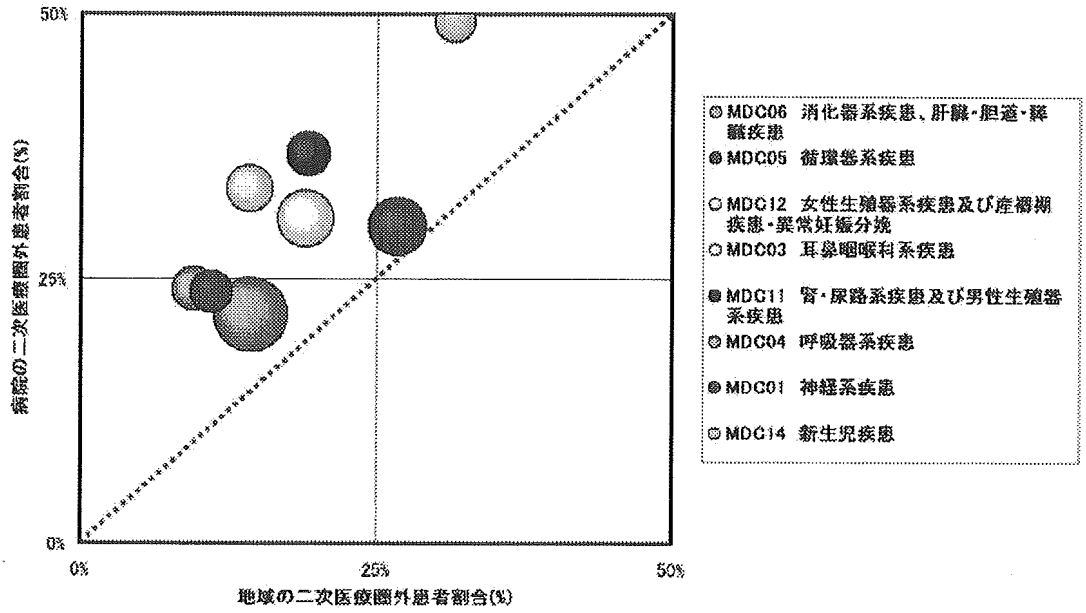
- 収益面から見ると、循環器系、各種悪性腫瘍等の疾患が、在院日数が長く、診療報酬額も高いことから、上位に上がってきている。この大学病院ではこれらの専門的な診療が医業収益の重要な部分を占めていることがわかる。
- 二次医療圏シェアを含めて分析すると、専門性が高く医業収益の大きな部分を占めるDPC050050 狭心症の二次医療圏内シェアが低いことがわかる。図中に破線で示すような二次医療圏シェアと疾患別年間医業収入の関係のシミュレーションから、この分野の診療に力を入れ、地域シェアを伸ばすことができれば、医業収益の増加に大きく貢献することが期待される。

分析３－１　短期入院 SWOT 分析



- この大学病院の診療科別に見ると、MDC05 循環器系、MDC06 消化器系、MDC12 産婦人科系、MDC16 その他外傷系の患者数が多く、地域シェアも大きいことから、これらの分野において積極的攻勢に出てより診療の充実を図っていくことが経営戦略的に重要であるといえる。
- 一方、MDC01 脳神経系、MDC02 眼科系、MDC03 耳鼻科系、MDC07 整形外科系、MDC08 皮膚科系、MDC09 乳腺外科系、MDC10 内分泌系、MDC11 腎・泌尿器科系、MDC13 血液系、MDC14 小児科系などでは、患者数はそれほど多くないものの地域におけるシェアは比較的大きく、地域医療の重要な部分を担っている。従って、これらの分野については、いわゆる「段階的施策」として、診療内容を徐々に充実させていく対策が必要となる。
- 最後に、MDC04 呼吸器系、MDC15 新生児等の診療科は、マーケティングの観点からは患者数が少なく二次医療圏内シェアも低いことから厳しい状況にあるといえる。二次医療圏内に有力な専門医療機関が存在するのであろう。対策としては、「専守防衛」を基本方針として医療連携を重視し、場合によっては、「撤退」も考慮する必要があろう。

分析４－１　短期入院圏外患者分析

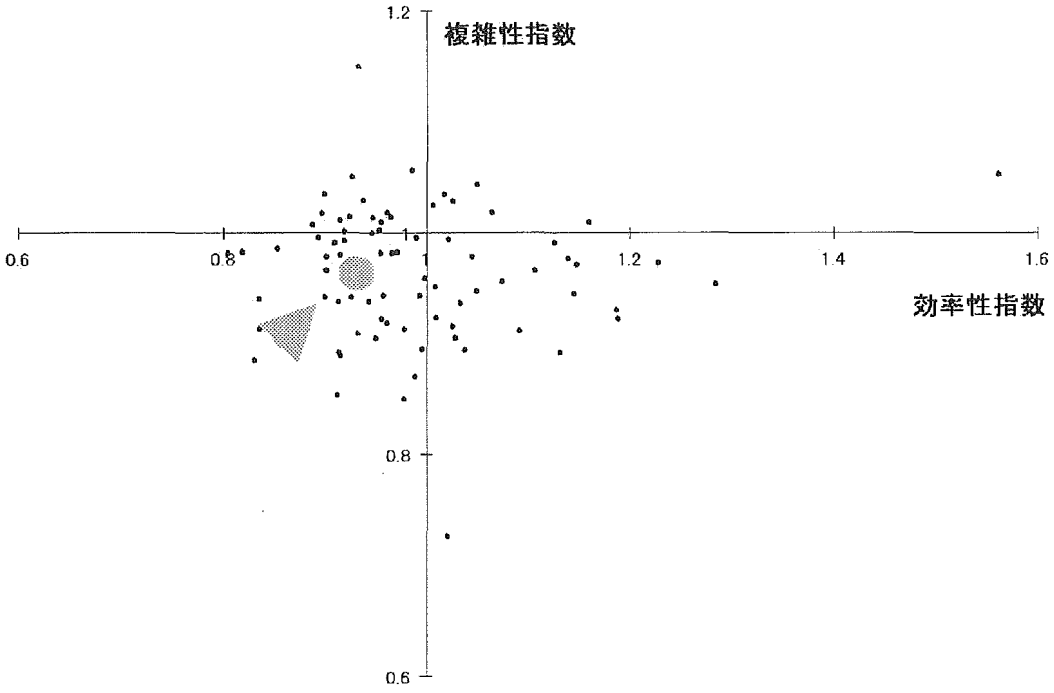


- この医療機関の所属する二次医療圏では、ほぼ 10%から 30%の患者が二次医療圏外から入院していて、MDC14 新生児疾患、MDC05 循環器系疾患では 25%を越える患者が二次医療圏外からの入院であることがわかる。

- 一方、この大学病院の二次医療圏外患者の割合は、この二次医療圏の中の他の医療機関よりも高いため、すべての診療科のバブルが図中の破線より上方に位置している。すなわち、この大学病院の診療圏は同じ二次医療圏内の他の多くの医療機関よりも大きくなっていて、より遠くからの患者が入院していることがわかる。

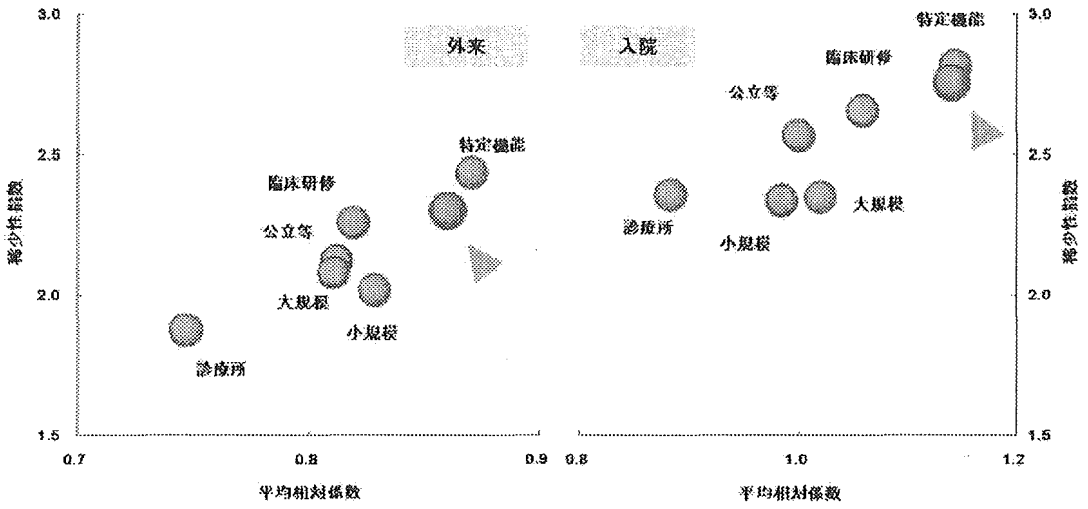
- 診療科単位で見ると、MDC14 新生児疾患では、二次医療圏外からの患者の割合が 50%前後と大きく、広い地域からの入院患者を受け入れていることがわかる。その他、腎泌尿器系、耳鼻科系、産婦人科系、循環器系は 30%前後の患者が二次医療圏外であり比較的医療圏が広いと言える。MDC04 呼吸器系は SWOT 分析が示すように二次医療圏内では弱いようであるが、それを二次医療圏外からの遠方からの患者でカバーしている面があるようである。

分析５　効率性・複雑性分析



- この医療機関のケースミックスの複雑性指数は、全特定機能病院の平均を 1 としたときに、約 0.96 であり、特定機能病院の平均より 4%ほど複雑性の低い症例が入院していることがわかる。
- 一方、ケースミックスを補正したときの在院日数の効率性を示す効率性指数は、全特定機能病院の平均を 1 としたとき、0.93 であり、特定機能病院の平均に比較して 7%ほど効率の劣る医療を提供していると言える。効率性の改善を検討する余地があるといえるだろう。

分析６　稀少性・相対係数分析



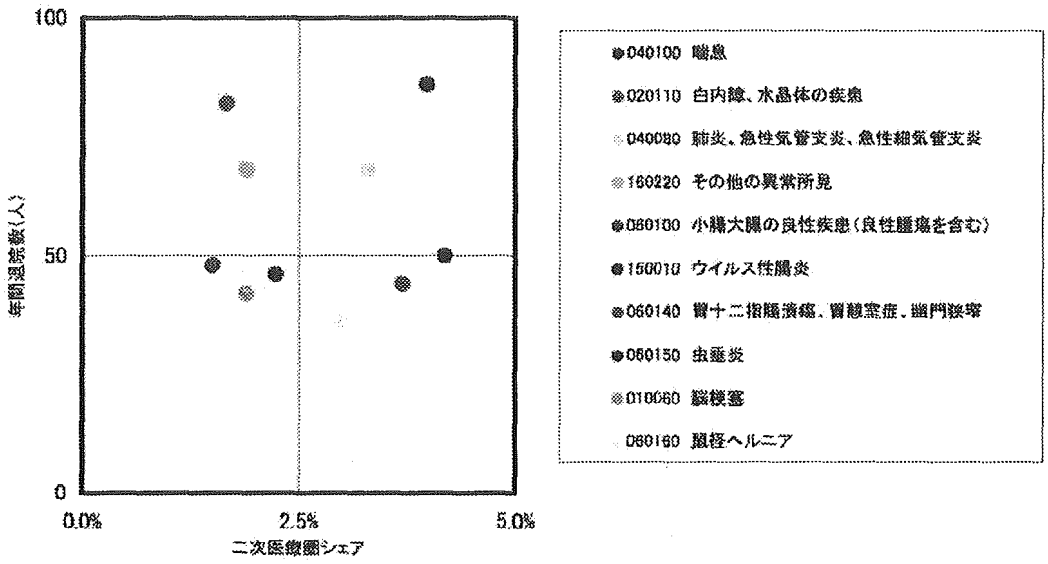
- この医療機関の外来患者の平均相対係数は 0.86、稀少性指数は 2.30 となっている。前者はほぼ特定機能病院の外来の平均と近く、後者は臨床研修病院の外来の平均と近い。この医療機関の外来患者の平均像は、重症度としてはほぼ特定機能病院の平均像に近いが、多様性の観点では、特定機能病院の平均よりやや低く、ほぼ臨床研修病院並みであるということになる。
- 一方、入院患者をみると、平均相対係数は 1.14、稀少性指数は 2.75 となっていて、両者とも特定機能病院の平均値とほぼ同様である。この医療機関の入院患者の重症度と多様性はほぼ特定機能病院の平均値と同等であるといえる。

分析レポート例3

大都市の
中規模急性期病院

人口 100 万人超の大都市にある一般病床数 400 床程度の地域密着型の急性期中規模病院を想定した分析

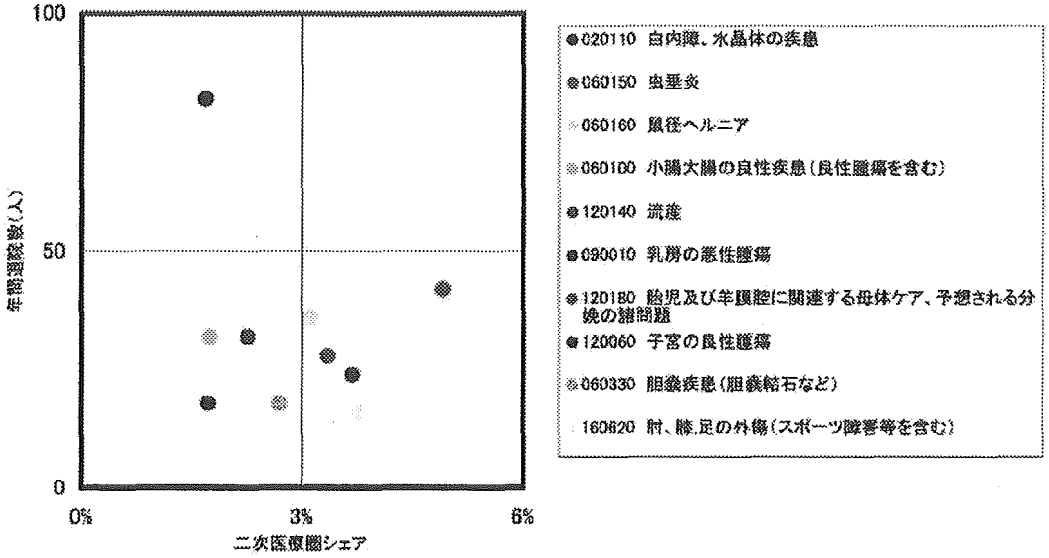
分析１－１　DPC 別短期入院二次医療圏シェア分析



- この病院の短期入院患者のトップ 10 は、喘息、白内障、肺炎、腸炎、消化性潰瘍、虫垂炎、脳梗塞等多彩であるが、いわゆるコモンディジーズが大部分を占めいている。これは、この病院が専門性のあまり高くない一般的な入院医療を幅広く提供していることを示している。

- マーケットシェアは大都市の二次医療圏であることを差し引いてもあまり大きい方ではなく、地域に類似した医療機関が複数あることが予想される。

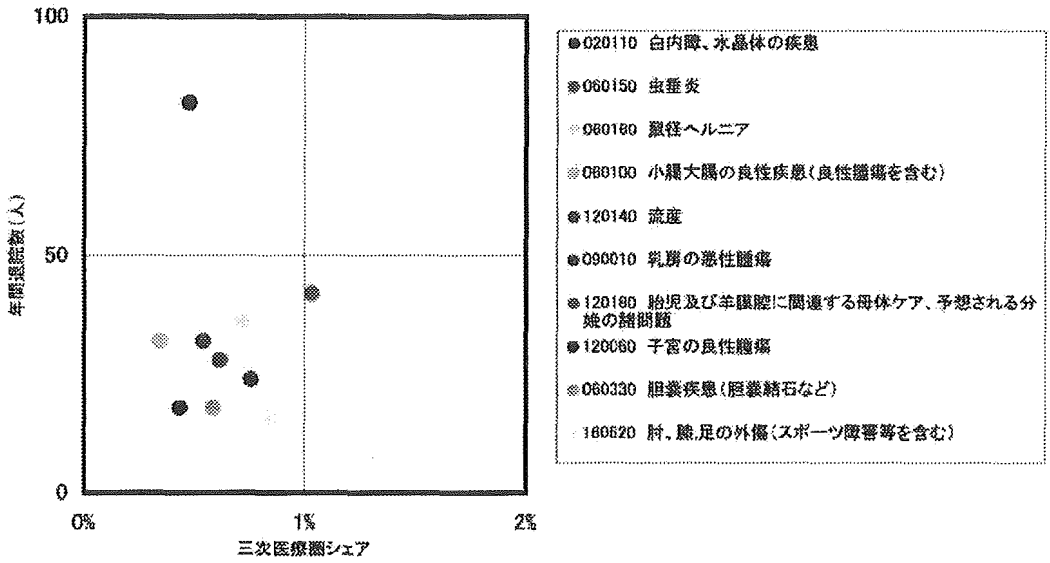
分析１－２　DPC別短期手術入院二次医療圏内シェア分析



- 手術入院患者の状況も同様である。専門性があまり高くない手術疾患が多く、地域シェアも虫垂炎の5%前後が最大で他は2-3%とあまり大きくない。

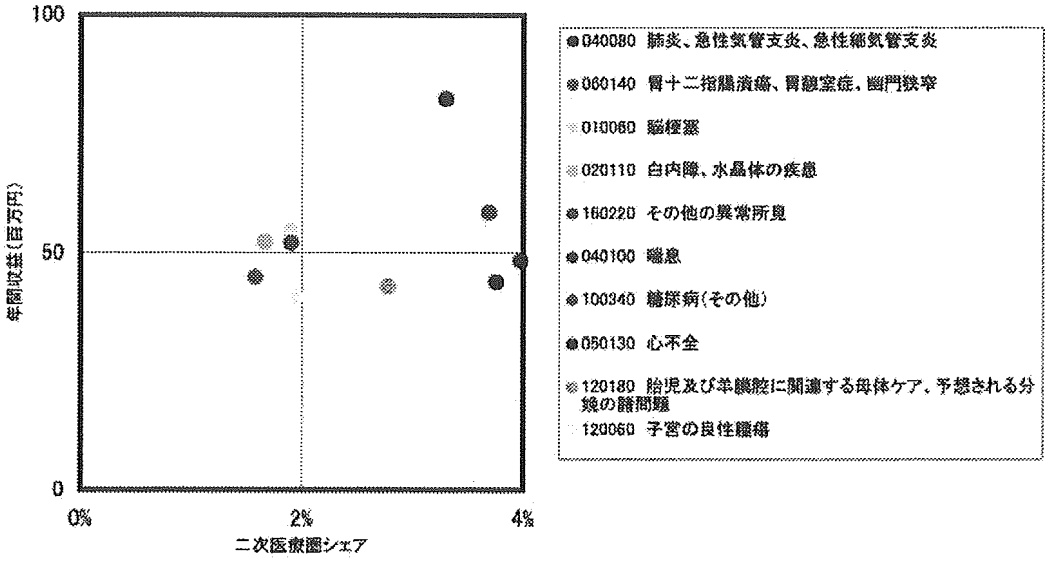
- 手術の視点からもあまり特徴のない一般的な病院と捉えていいようである。

分析１－３　DPC 別短期手術入院都道府県内シェア分析



- 三次医療圏シェアはほぼ 1%以下である。大都市圏においては、よほど大きな病院以外は三次医療圏シェアの分析はあまり意味がないであろう。

分析２　DPC 別短期入院二次医療圏内シェアー収益分析



- この結果からは、シェアの増大によって収益増加に大きな貢献が期待される疾患を示すことは難しいが、強いて上げれば、肺炎、白内障、脳梗塞等のシェアを伸ばす努力の効果が期待できるであろう。